

令和7年度

2年次

シラバス

学習指導計画

滋賀県立瀬田工業高等学校 定時制課程

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	国語	科 目	言語文化	学 年	類 型	単 位 数
				2	全員	2
学習の 目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。					
使用教科書	大修館書店・新編		言語文化	副教材等	なし	
評 価	評 価 法		ワークシート、定期考査、行動観察、小テスト等			
	評価 観点 の 趣 旨	a	知識・技能	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 古典・漢文を読むために必要な決まり等を理解している。		
		b	思考・判断・表現	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて 叙述を基に的確にとらえている。「書くこと」において、自分の体験の中から 適切な題材を決め、表現したいことを明確にしている。		
		c	主体的に学習に 取り組む態度	古文・漢文・近代以降の文学的な文章を読み取ることに興味をもち、学習に意 欲的に取り組もうとしている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3 段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	8	1 ことばと出会う 言葉の森を育てよう。 漢字と仮名の使い分け 【読むこと】8h	○言葉についての筆者の考えを読み取り、言葉が果たしている役割を理解する。日常使っている言葉を見つめ直す。 ・「読むこと」において、文章の内容や構成、展開などについての的確にとらえている。 ・語句の意味を理解し、基本的な漢字を読むことができるか。 ・教材に興味をもち、日常的に使っている言葉を見直そうとしている。 ○日本語の表記の特色について、筆者の主張をとらえる。表記に興味をもち、調べたり考えたりできる。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化の関係について理解している。 ・文章の内容や構成、展開などについての的確にとらえている。	ワークシート 小テスト	ワークシート 小テスト	行動観察 振り返りシート
	5	8	1 古文に親しむ いろは歌 児のそら寝 【読むこと】8h	○古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解する。受け継がれてきた古文を音読し、響きやリズムを味わう。 ・言葉には文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・文字や言葉の変化について、また古典の言葉と現代の言葉のつながりについて理解している。 ○繰り返し音読し、古文の読みに慣れる。児と僧たちの行動、心情の移り変わりを読み取る。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語の決まり、古典特有の表現などを理解している。 ・作品の文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、理解している。	ワークシート 小テスト 前期中間考査	ワークシート 小テスト 前期中間考査	行動観察 振り返りシート

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	6	9	1 表現を味わう みずかまきり とんかつ 【読むこと】9h	○文学作品の描写や会話、特徴のある表現を味わい、登場人物の人間関係や心理を読み取る。 ・文章中の語句の意味等を理解している。 ・「読むこと」において、作品の文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を理解している。 ・登場人物の人間関係や心理を読み取ろうとしている。 ○登場人物の描写から人物像をとらえ、場面ごとの心情を読み取る。語り手の役割や場面の展開に着目し、作品の構造を理解する。 ・文章中の語句の意味等を理解している。 ・作品の文章に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を理解している。 ・登場人物の人物像や心情を読み取り、作品の内容を理解しようとしている。	ワ ー ク シ ー ト	ワ ー ク シ ー ト	行 動 観 察 振 り 返 り シ ー ト
	7	4	1 随筆を楽しむ 高名の木登り 公正の二位のせうとに 奥山に猫またといふもの 神無月のころ 【読むこと】4h	○音読して古文の読みに慣れ、文章の内容を正確に読み取る。作者のものの見方や感じ方について、自分の考えをもつ。 ・古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現について理解している。 ・文章の内容を的確にとらえている。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方をとらえている。 ・『徒然草』に興味をもち、作者のものの見方や感じ方を読み取り、自分の考えをもとうとしている。	ワ ー ク シ ー ト	ワ ー ク シ ー ト	行 動 観 察 振 り 返 り シ ー ト
	9	3	1 随筆を楽しむ 春はあけぼの うつくしきもの にくきもの 【読むこと】3h	○音読して古文の読みに慣れ、文章の内容を正確に読み取る。作者のものの見方や感じ方について、自分の考えをもつ。 ・古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現について理解している。 ・文章の内容を的確にとらえている。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方をとらえている。 ・『枕草子』に興味をもち、作者のものの見方や感じ方を読み取り、自分の考えをもとうとしている。 ・『枕草子』の世界観を読み取り、その背景にあるものについて自分なりの考えをもつことができる。	ワ ー ク シ ー ト	ワ ー ク シ ー ト	行 動 観 察 振 り 返 り シ ー ト

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	9	3	1 随筆を楽しむ 春はあけぼの うつくしきもの にくきもの 【書くこと】3h	○学習した内容を踏まえ、自分なりに『枕草子』の世界観を表現することができる。 ・古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現について理解している。 ・「書くこと」において、自分の考えや感性を他者に的確に伝えることができる。	ワークシート 小テスト 前期期末 考査	ワークシート 小テスト 前期期末 考査	行動観察 振り返りシート
	10	8	1 漢文に親しむ 訓読のきまり 格言 再読文字 【読むこと】8h	○漢文の訓読のきまりについて理解する。漢語・漢文と我が国の言語文化の関係について理解する。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現について理解している。 ・漢文をきまりに従って訓読することができる。 ・作品の内容を理解している。 漢文に興味をもち、学習に意欲的に取り組もうとしている。	ワークシート 小テスト	ワークシート 小テスト	行動観察 振り返りシート
後期	11	8	1 現代に生きることば 守株 五十歩百歩 蛇足 【読むこと】8h	○「株を守る」「五十歩百歩」「蛇足」という言葉の意味について、考えを深める。この話で語られる教訓の意味を理解する。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現について理解している。 ・漢文をきまりに従って訓読することができる。 ・作品の内容を理解している。 漢文に興味をもち、学習に意欲的に取り組もうとしている。	ワークシート 小テスト	ワークシート 小テスト	行動観察 振り返りシート
	12	6	1 ことばと生きる 祖母が笑うということ ことばは光 コルベ神父 【読むこと】6h	○筆者の経験や、物の見方、考え方をとらえる。文章の展開のしかたや表現のしかたに着目し、文章を味わう。 ・作品の内容を理解している。 ・文章の展開や、表現のしかた、表現の特色について意識している。 ・作品を自分なりに読み味わい、自分の考えを深めようとしている。	ワークシート 小テスト 後期中間 考査	ワークシート 小テスト 後期中間 考査	行動観察 振り返りシート

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
後期	1	6	1 物語の広がり 伊勢物語 芥川 筒井筒 あずま下り 【読むこと】6h	○登場人物の行動や場面を把握する。和歌に表れた心情を読み取り、文中の中で和歌が果たしている役割を考える。 ・古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現について理解している。 ・文章の内容を的確にとらえている。 ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方をとらえている。	ワークシート	ワークシート	行動観察
	2	6	物語の広がり 木曽の最後 【読むこと】6h	○音読して文体の特徴をとらえる。登場人物の心情の変化を読み取る。 ・言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現について理解している。 ・文章の内容を的確にとらえている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方をとらえている。	ワークシート 小テスト 後期期末 考查	ワークシート 小テスト 後期期末 考查	行動観察 振り返りシート
後期	3	4	物語の広がり 木曽の最後 【書くこと】4h	○学習した知識や読解を踏まえ、登場人物の心情とその結末について、自分の考えを表現する。 ・「書くこと」において、登場人物について、感じたことを的確に伝えるように表現することができる。 ・他者の考えを聞き、自分の思考を深化させることができる。	ワークシート 小テスト	ワークシート 小テスト	行動観察 振り返りシート

担当者からのメッセージ（学習方法など） <授業の進め方> 教科書を基本に授業を展開します。 <持ち物> 教科書 筆記用具 タブレット <アドバイス> 定期考查だけでなく、普段の授業を受ける姿勢や課題・提出物の取組状況等も重要になるので、バランスよく取り組んでください。 <その他> 生徒の状況に応じて、学習項目にかかる指導時間や内容については変更することがあります。
--

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	地理歴史	科 目	歴史総合	学 年	類 型	単 位 数
				2	全員	2
学習の 目標	「世界と日本との深いつながりを学ぶ」こと、「歴史がつねに動いていることを知る」ことを目的に、18 世紀から現在までの近現代史を対象とし、約 300 年にわたる歴史を通して「世界とその中の日本」を学ぶ。 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、主体的に生きる社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざす。					
使用教科書	歴史総合（実教出版）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法			定期考査、プリント、小テスト、レポート、記述や発言の様子、学習に向かう行動観察		
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。		
		b	思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	1	・歴史の扉	・高校の学習の動機づけと以後の歴史学習に必要な基本的な技能や学び方を身につける。	プリント	プリント	記述や発言の様子
		5	第1章 近代化への胎動		小テスト	小テスト	観察
			1. 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動	・17世紀以前のアジアの繁栄とヨーロッパの海外進出の動きとの関係を理解する。		ワークシート	
			2. 江戸時代の生産・流通と諸改革	・商品作物の生産と流通は、国内外にどのような影響を与えたのか考える。			
			3. 幕政の改革と東アジア世界	・江戸幕府が国内と国外に抱えた問題点（内患外憂）について考える。			
	5	8	第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」		プリント	プリント	記述や発言の様子
			4. イギリス産業革命とアメリカ独立戦争	・イギリス産業革命やアメリカ独立戦争は、どのようにはじまり、展開したのか理解する。	小テスト	小テスト	観察
			5. フランス革命とウィーン体制	・フランス革命とウィーン体制のもとで、政治体制はどのように変化していったのか理解する。		ワークシート	
			6. アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立	・独立後のアメリカ合衆国の発展とその過程で起きた南北戦争について考える。			
			7. オスマン帝国の衰退とロシア	・東方問題を通じて、ロシアやオスマン帝国にはどのような変化が生じたか理解する。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	5	23. アジアの民族運動	・第一次世界大戦後、なぜアジア各地で民族運動が活発になったのか理解する。	プリント	プリント	記述や発言の様子
			24. 第一次世界大戦後の欧米諸国	・第一次世界大戦後の欧米諸国に見られた動きを理解する。	小テスト	小テスト	観察
			25. ひろがる社会運動と普通選挙の実現	・日本での社会運動の広がり、男性普通選挙と治安維持法制定について考える。		ワークシート	
	11	14	第6章 経済危機と第二次世界大戦		プリント	プリント	記述や発言の様子
			26. 世界恐慌と各国の対応	・世界恐慌と日本への影響について考える。	小テスト	小テスト	観察
			27. ファシズムの時代	・ドイツとイタリアの対外進出と各国の対応について考える。		ワークシート	
			28. 満洲事変と軍部の対立	・日本はどのようにして国際的孤立の道をすすんでいったのか理解する。			
			29. 日中戦争と戦時体制	・日中戦争の内容と影響を考える。			
			30. 第二次世界大戦の勃発	・ヨーロッパでの戦いと、アジアの日中の戦争はどのようにしてむすびついたのか考える。			
			31. 第二次世界大戦の終結	・戦争は、いつどのようにして「終結」したのか考える。			
	12		32. 国際連合の成立と冷戦	・国際連合の成立と組織の内容について考える。			
			33. 日本占領と日本国憲法	・民主化政策によって、日本が戦前からかわったことを理解する。	後期中間 中間考査	後期中間 中間考査	
			34. 朝鮮戦争と日本	・朝鮮戦争など冷戦が対日占領政策に与えた影響を考える。			
	1	6	第7章 冷戦と脱植民地化		プリント	プリント	記述や発言の様子
			35. 植民地の独立	・植民地の独立と第三勢力の台頭について考える。	小テスト	小テスト	観察
			36. 米ソ両陣営の動揺	・強大な軍事力をほこった米ソが、影響力を弱めていったのはなぜか理解する。		ワークシート	
			37. 日本の国際社会復帰と高度経済成長	・日本の高度経済成長期を考える。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法				
					a	b	c		
後 期	1	6	第 8 章 多極化する世界		プリント	プリント	記述や 発言の 様子 観察		
			38. 石油危機と世界経済	・石油危機と変動相場制実施, アジアの経済成長について考える。	小テスト	小テスト			
			39. 緊張緩和から冷戦の終息へ	・米ソの動きは冷戦の終結にどのようにかかわったのか理解する。		ワークシート			
	2		40. 日本の経済大国化	・日本の経済大国化と国際的地位の向上について考える。					
			3	4	第 9 章 グローバル化と現代世界			後期末 考查	後期末 考查
					41. 地域紛争と対立	・冷戦後の世界, 民族の対立を考える。			
		42. 国際秩序の変容	・グローバル化がすすむなかで, 各国はどのような動きをみせたのか理解する。						

担当者からのメッセージ（学習方法など）							
・授業の進め方 教科書の内容にそって進んでいきます。 ・授業では 学習項目の各単元に関心を持ち、積極的に取り組んでください。 授業ごとのプリントやワークシートなどは毎回しっかり整理し、提出してください。 「他者の意見をしっかり聞くこと」と「自分の意見を持つこと」両方を大切にしてください。 ・学習に向けて 教科書を丁寧に読んでください。このとき「答えを学ぶ」姿勢ではなく、「問いかける」姿勢で読み取り、歴史的な動きの中での世界と日本の結びつき（＝歴史総合）を探してください。 ・持ち物 教科書、ファイル、タブレット、筆記用具 ※学習項目等は随時見直し、変更する場合があります。							

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	数 学		科 目	数学Ⅰ	学 年	類 型	単 位 数
					2	全 員	1
学習の 目標	図形と計量およびデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。						
使用教科書	新編 数学Ⅰ(数研出版)				副教材等	な し	
評 価	評 価 法			ノート、ワークシート、定期考査、小テスト、行動観察、振り返りシート等			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	図形と計量およびデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。			
		b	思考・判断・表現	図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。			
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	4	3	第4章 図形と計量 第1節 三角比 1. 三角比 【課題学習3（三角比）】	○直角三角形において、正弦、余弦、正接が求められる。 ○三角比の定義から、辺の長さを求める関係式を考察することができる。 ○直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し、測量などの応用問題に利用できる。 正 n 角形の周の長さが n を大きくすると円周の長さに近づくことを理解し、計算方法について考察しようとする。	ノート 小テスト	ワークシート 小テスト	行動観察 振り返りシート
	5	3	2. 三角比の相互関係	○三角比の相互関係を利用して、1 つの値から残りの値が求められる。 ○ $\sin(90^\circ - \theta) = \cos \theta$ などの公式が利用できる。	前期中間考査	前期中間考査	
	6	4	3. 三角比の拡張	○直角三角形の斜辺の長さを適当に変えて、三角比を考察することができる。 ○ $\sin(180^\circ - \theta) = \sin \theta$ などの公式が利用できる。 ○ $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ において、三角比の値から θ を求めることができる。また、1 つの三角比の値からの残りの値を求めることができる。	ノート	ワークシート	行動観察
	7	2	4. 正弦定理	○正弦定理における $A=B=C=D$ の形の関係式を適切に処理できる。 ○正弦定理を用いて、三角形の辺の長さや外接円の半径が求められる。	小テスト	小テスト	振り返りシート
		2	5. 余弦定理	○余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさが求められる。			
	9	3	6. 正弦定理と余弦定理の応用	○余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。	前期末考査	前期末考査	

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	2	7. 三角形の面積	○三角比を用いた三角形の面積を求める公式を理解している。 ○3 辺が与えられた三角形の面積を求めることができる。 ○3 辺が与えられた三角形の内接円の半径を求めることができる。	ノート	ワーク シート	行動観 察
		2	8. 空間図形への 応用	○三角比を測量に応用できる。 ○正弦定理, 余弦定理を空間図形の計量に応用できる。 ○三角比を利用して, 正四面体などの体積を求めることができる。	小テスト	小テスト	振り返 りシー ト
	11	2	第5章 データの分 析 1. データの整理	○度数分布表, ヒストグラムについて理解している。	ノート	ワーク シート	行動観 察
		2	2. データの代表値	○平均値や最頻値, 中央値の定義や意味を理解し, それらを求めることができる。	小テスト	小テスト	振り返 りシー ト
	12	2	3. データの散らば りと四分位数	○範囲や四分位範囲の定義やその意味を理解し, それらを求めることができる。また, データの散らばりを比較することができる。 ○箱ひげ図をかき, データの分布を比較することができる。 ○ヒストグラムと箱ひげ図の関係について理解している。	後期中 間考查	後期中 間考查	後期中 間考查
		2	4. 分散と標準偏差	○偏差の定義とその意味を理解している。 ○分散, 標準偏差の定義とその意味を理解し, それらに関する公式を用いて, 分散, 標準偏差を求めることができる。	ノート	ワーク シート	行動観 察
	1	3	5. 2 つの変量の間の 関係	○相関係数の定義とその意味を理解し, 定義にしたがって求めることができる。 ○相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること, 数値化して扱うことのよさを理解している。 ○分割表の意味を理解し, 問題解決に活用することができる。			
		3	6. 仮説検定の考 え方	○仮説検定の考え方を理解し, 具体的な事象に当てはめて考えることができる。	小テスト	小テスト	振り返 りシー ト
	3		【課題学習 4 (偏差値)】	偏差値の求め方やその数値の意味について, 理解することができる。	後期末 考查	後期末 考查	

担当者からのメッセージ (学習方法など)
<授業の進め方> 教科書を基本に授業を展開します。 <持ち物> 教科書、ノート、筆記用具、タブレット <アドバイス> 数学が得意でない人もしっかりと授業を聞いて、自分なりにノートやワークシート等をまとめ、家で復習をしてください。 <その他> 生徒の状況に応じて、学習項目にかかる指導時間数や内容については変更することがあります。

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	理科	科 目	科学と 人間生活	学 年	類 型	単 位 数
				2	全 員	2
学習の 目 標	自然と人間生活のかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に対する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。					
使用教科書	東京書籍 科人 701 科学と人間生活			副教材等	なし	
評 価	評 価 法		定期考査、小テスト、実験レポート、ワークシート、振り返りシート等			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深めるとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。		
		b	思考・判断・表現	自然の物事・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を身に付けている。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高めようとしている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4		1 編 生命の科学				
			1 章 微生物とその利用				
		2	① さまざまな微生物 A 身のまわりの微生物	・身のまわりにさまざまな微生物が存在することを知る。 ・食品中、水中、空気中の微生物を観察し、それぞれの細胞の大きさや形について考察する。		実験レポート	実験レポート
	5	3	B 生態系における微生物のはたらき	・生態系における微生物の役割について考え、微生物は有機物を分解する分解者としての役割を果たしていることを理解する。 ・生態系における微生物のはたらきと炭素の循環について理解する。	ワークシート	ワークシート	
		3	C 窒素と微生物のはたらき	・根粒菌が大気中の窒素から窒素化合物を合成していることを理解する。 ・生態系における微生物のはたらきと窒素の循環について理解する。	小テスト		振り返り
後期	5	2	D 水中の微生物のはたらき	・微生物が、分解者として水の浄化に関係していることを理解する。 ・微生物を利用して環境の浄化が行われていることを理解し、その利点を考える。		ワークシート	行動観察
		1	② 私たちの暮らしへの微生物の利用 A 微生物の発見の歴史	・自然発生説を否定した方法について考え、理解する。 ・微生物やウイルスの発見の歴史を理解する。		ワークシート	
		2	B 食品と微生物	・発酵や腐敗が微生物のはたらきによって起こることを理解する。 ・発酵食品にはどのような物があるかを考え、微生物のはたらきによって、さまざまな発酵食品がつくられることを理解する。	小テスト		振り返り

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	6	3	C 発酵のしくみ	・アルコール発酵の仕組みとそれによって酒類やパンができることを理解する。 ・乳酸発酵の仕組みと乳製品や漬け物の製造に利用されていることを理解する。	前期中 間考査	実験レ ポート	実験レ ポート
		1	D 医薬品と微生物	・微生物によってつくられる抗生物質の発見の歴史について理解する。 ・抗生物質以外にも、微生物を利用して有用な医薬品がつくられていることを理解する。		前期中 間考査	振り返 り
	7	1	2編 物質の科学 1章 材料とその再利用 ① リサイクルとは何か A 資源の再利用と3R	・循環型社会を目指す必要性と3Rについて理解する。 ・ガラス瓶における3Rについて理解し、それぞれの利点について考える。		ワーク シート	ワーク シート
		2	② 金属の性質とその再利用 A 金属の性質	・金属と非金属の違いを比較して、金属に特有の性質を理解する。 ・金属の構造を理解し、それを基に金属に特有の性質について考える。		ワーク シート	行動観 察
		3	B 異なる金属の区別	・金属の分類について理解する。 ・金属を区別するための方法を考えて実験を計画し、アルミニウム、鉄、銅の性質をさまざまな方法で調べ、その結果を基に考察し、金属の種類による物理的な性質および化学的な性質の違いを理解する。	小テス ト	実験レ ポート	実験レ ポート
		3	C 金属の製錬と人間生活	・銅の精錬方法と用途について理解する。 ・鉄やアルミニウムの精錬方法と用途について理解する。 ・さびについて理解し、さびを防ぐ方法とその利用について理解する。	ワーク シート	ワーク シート	行動観 察
		2	D 金属の再生利用	・スチール缶やアルミニウム缶の再生利用の方法について理解し、その重要性について考える。	小テス ト		振り返 り
		2	③ プラスチックの性質とその再利用 A プラスチックの性質と分類	・プラスチックの種類や特徴、用途について理解する。 ・プラスチックを区別する方法を考え、いろいろなプラスチックの性質を調べ、その実験結果を基に、ポリエチレン、ポリ塩化ビニル、フェノール樹脂などの性質を比べ、それぞれの特徴を考える。		ワーク シート	ワーク シート
		3	B プラスチックはどのようにつく るのか	・プラスチックの原料について理解する。 ・モノマーとポリマー、重合(付加重合、縮合重合)など、プラスチックの構造について理解する。 ・さまざまな機能をもつプラスチックが開発、利用されていることを知り、それらと人間生活との関わりについて考える。	小テス ト	ワーク シート	行動観 察
		2	C プラスチックの再生利用	・プラスチックの再生利用の重要性について考えるとともに、プラスチックのマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクル、サーマルリサイクルについて理解する。	前期末 考査	前期末 考査	振り返 り
	9						

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10		3 編 光や熱の科学 1 章 光の性質とその利用 ① 光の進み方とその基本的な性質				
		2	A 光の進み方と見え方	- 異なる物質の境界面で光が反射、屈折するときの法則を理解する。 - 透明な物が見える理由について理解する。 - 全反射について理解する。	小テスト		振り返り
		3	B 光の波としての性質①	- 光の分散とスペクトルについて理解する。 - 光の波長とスペクトルとの関係について理解する。 - 偏光板を用いて物体のひずみを観察することで、製品の品質管理などが行われていることを知る。		ワークシート	ワークシート
	11	2	C 光の波としての性質②	- 光は、回折と干渉という波特有の性質をもつことを理解する。 - 光が回折と干渉という波特有の性質をもつことを確かめたヤングの実験について知る。	ワークシート	ワークシート	
			② 目に見える光と色の見え方				
		3	A さまざまなスペクトル	- 白熱電球と電球色蛍光灯の写真を基に、光源によって光のスペクトルはどのように違うかについて問題を見いだす。 - 簡易分光器を通して、さまざまな光源のスペクトルを観察し、光源によってスペクトルに違いがあることを捉える。		実験レポート	実験レポート
		3	B 光の3原色と色	- 物体の色がどのようにして生じているかについて、光の3原色や人の視覚と関連付けて理解する。 - 物体の色は何によって決まるのかを考え、物体から目に届く光には透過光と反射光があることを理解する。	小テスト	ワークシート	ワークシート
	12		③ 目に見えない光とその利用				
		3	A 電磁波の利用①	- 電磁波という広い概念で、可視光線や赤外線、紫外線、電波、X線などの関係を理解する。 - テレビなどのリモコンを使って、赤外線を調べ、赤外線の性質とその利用について理解を深める。 - ブラックライトを使って、紫外線に反応する物質を調べ、紫外線の性質とその利用について理解を深める。		実験レポート	実験レポート
		2	B 電磁波の利用②	- 電波やX線、ガンマ線の性質とその利用について理解を深める。 - 放射線の一種としてのX線やガンマ線の生物への影響について理解する。	ワークシート	ワークシート	行動観察
			4 編 宇宙や地球の科学 1 章 太陽と地球 ① 太陽と月がもたらすリズム				
		2	A 太陽と月がつくる暦	- 同じ時刻に太陽や月が見える方位は日によって変化するのかを考え、太陽や月の日周運動について問題を見いだす。 - 地球の自転と公転によって、1日や1年が定義されていることを理解する。 - 月の見え方とひと月、暦の関係を理解する。	後期中間調査	後期中間調査	ワークシート

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
後期	1	4	B 海水面の変動と潮の満ち干をもたらす力	・潮位のデータを基に、潮位の変化の規則性について考察する。 ・潮の満ち干と月の引力との関係について考え、理解する。 ・太陽、地球、月の位置関係と潮位の変動との関係について考え、潮位の変動の周期性について理解する。 ・大潮と高潮が重なると、災害をもたらすことがあることを理解する。	小テスト	実験レポート	実験レポート
	2	3	② 太陽が動かす大気と水 A 太陽の放射エネルギー	・太陽のエネルギー源、太陽活動の変動、太陽の放射エネルギーについて知る。 ・太陽の光エネルギーを利用した太陽光発電の利点と課題について考え、理解する。 ・温室効果ガスと温室効果の仕組みを理解し、地球温暖化について考える。	ワークシート	ワークシート	行動観察
		4	B 太陽がつくる大気と海洋の循環	・大気の構造や対流について理解する。 ・緯度による太陽の熱の入射量の違いと地球の自転によって大気の流れができることを理解し、大気の大循環を理解する。 ・海流は風によって生じることを理解する。 ・大気と海水の移動によって低緯度の熱を高緯度に運び、その結果として気候が形成されることを理解する。	小テスト	ワークシート	振り返り
		4	C 1年を通じた大気の運動と気象災害	・地球の公転と自転軸の傾きによって季節が生じることを理解する。 ・気圧分布や大気の流れと各季節の気象との関係を理解する。 ・熱帯低気圧の経路図を基に、台風の発生場所と移動経路の特徴について考察する。 ・台風や集中豪雨などにより、災害が起こることがあることを理解する。	ワークシート	ワークシート	振り返り
	3				後期末 考查	後期末 考查	

担当者からのメッセージ（学習方法など）

<授業の進め方>

- ・教科書を基本に授業を進めていきます。
- ・補助教材としてプリントやタブレット端末を用いて学習をしていきます。
- ・単元によって実験を行う予定です。

<アドバイス>

- ・常日頃から周りに関心を持つように心がけましょう。
- ・分からないときや、疑問に思うことがあれば、教科担当に相談しましょう。

<その他>

- ・学習項目は前後することや、内容の変更をすることがあります。

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	保健体育		科 目	体 育	学 年	類 型	単 位 数
					2	全 員	2
学習の 目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。						
使用教科書	保体701 現代高等保健体育（大修館）				副教材等	なし	
評 価	評 価 法			・実技（含運営・審判法）・提出課題・振り返りシート（毎時） ・小テスト（理論）・パフォーマンス課題（スピーチ発表・プレゼンテーション） ・学習に向かう行動観察により評価します。			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	・運動の合理的・計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。			
		b	思考・判断・表現	・自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組みや、目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的・計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。			
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	4	2	体育理論	運動・スポーツの学び方 ・スポーツにおける技能と体力 ・スポーツにおける技術と戦術	提 出 課 題 小テスト	提 出 課 題 小テスト	行 動 観 察
	5	4	体づくり運動	体ほぐしの運動 ・手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき、仲間と主体的に関わり合うこと。	実 技 行 動 観 察	実 技 行 動 観 察	実 技 行 動 観 察
		4	陸上競技	短距離走・投てき(砲丸投げ) ・短距離走では中間走の高いスピードを維持して早く走ること。 ・投てきでは立ち投げなどから砲丸を突き出して投げること。	実 技 行 動 観 察	パフォー マンス 課 題	振 り 返 り シ ー ト
		4	【選択種目】 ・器械運動	マット運動・跳び箱運動 ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと。 ・跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと。			
		14	・バスケットボール 【ゴール型】 ・バドミントン 【ネット型】 ・ダンス から選択	球技(ゴール型):バスケットボール ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防すること。 球技(ネット型):バドミントン ・状況に応じたシャトル操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。 ダンス:現代的なリズムのダンス ・リズムの特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりをつけて仲間と対応したりして踊ること。			
	7	2	体育理論	運動・スポーツの学び方 ・技能の上達過程と練習 ・効果的な動きのメカニズム	提 出 課 題 小テスト	提 出 課 題 小テスト	行 動 観 察
	9	4	体づくり運動	実生活に生かす運動の計画 ・実生活に生かす運動の計画では、自己の狙いに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立てて取り組むこと。	実技 行 動 観 察	実技 行 動 観 察 パフォー マンス 課 題	実技 行 動 観 察 振 り 返 り シ ー ト

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	19	【選択種目】 ・バレーボール 【ネット型】 ・テニス 【ネット型】 ・柔道 から選択	球技(ネット型):バレーボール ・状況に応じたボール操作や仲間との連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。 球技(ネット型):テニス ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。 武道:柔道 ・相手の動きの変化に応じた基本動作から、得意技や連絡技・変化技を用いて、素早く相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防をすること。	実技 行 動 観 察	実技 行 動 観 察 パフォー マンス 課 題	実技 行 動 観 察 振 り 返 り シ ー ト
	11						
	12	2	体育理論	運動・スポーツの学び方 ・体カトレーニング ・運動やスポーツでの安全確保	提 出 課 題 小テスト	提 出 課 題 小テスト	行 動 観 察
	1	15	選択種目 ・サッカー 【ゴール型】 ・卓球 【ネット型】 から選択	球技(ゴール型):サッカー(フットサル) ・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防すること。 球技(ネット型):卓球 ・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすること。	実技 行 動 観 察	実技 行 動 観 察 パフォー マンス 課 題	実技 行 動 観 察 振 り 返 り シ ー ト
	2						
	3						

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・「体育」は必修科目で、1年次で2単位、2年次で2単位、3年次で3単位、合計7単位履修します。
- ・実技種目については、前項の学習内容を参考にしてください。
- ・「水泳」については夜間定時制であることを考え、実施していません。
- ・体操服は自由ですが、運動のできる服装・靴（体育館シューズは学校指定）で授業を受けてください。
- ・諸事情により実技ができない人は、教科担当まで申し出てください。

※学習項目等は随時見直し、変更する場合があります。

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	保健体育	科 目	保健	学 年	類 型	単 位 数
				2	全 員	1
学習の 目 標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。					
使用教科書	保体 701 現代高等保健体育（大修館）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法			考查、提出課題（毎時）、パフォーマンス課題（スピーチ発表・プレゼンテーション・ディベート）、記述や発言の様子、学習に向かう行動観察により評価します。		
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	個人および社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。		
		b	思考・判断・表現	個人および社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復および健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。		
		上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	3	生涯を通じる健康	○生涯を通じる健康について理解を深めること。 ○生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。	提出課題	提出課題	提出課題
				01 ライフステージと健康	行動観察	パフォーマンス課題	パフォーマンス課題
				02 思春期と健康			
				03 性意識と性行動の選択	前期中間 中期 後期	前期 中期 後期	行動観察
				04 妊娠・出産と健康	前期 中期 後期	前期 中期 後期	行動観察
	5	4	生涯を通じる健康	05 避妊法と人工妊娠中絶			
				06 結婚生活と健康	提出課題	提出課題	提出課題
				07 中高年期と健康			行動観察
				08 働くことと健康			
				・生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び安全管理をする必要があることを理解すること。	行動観察	パフォーマンス課題	パフォーマンス課題
	6	1	生涯を通じる健康	09 労働災害と健康	提出課題	提出課題	提出課題
				10 健康的な職業生活	行動観察	パフォーマンス課題	行動観察
				・労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解すること。	前期 中期 後期	前期 中期 後期	パフォーマンス課題

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	4		○健康を支える環境づくりについて理解を深めること。 ○健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。 01 大気汚染と健康 02 水質汚濁、土壌汚染と健康 03 環境と健康にかかわる対策	提出 課題 行動 観察	提出 課題 パ°フォー マンズ 課題	提出 課題 パ°フォー マンズ 課題
	11	4		04 ごみの処理と上下水道の整備 ・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響をおよぼすことがある。それらを防ぐには汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること。また、環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとすよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解する。 05 食品の安全性 06 食品衛生にかかわる活動 ・食品の安全を確保することは健康を保持増進する上で需要であること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解する。	提出 課題 行動 観察	提出 課題 パ°フォー マンズ 課題	提出 課題 パ°フォー マンズ 課題
	12	3			後期 中間 考查	後期 中間 考查	行動 観察
	1	3		07 保健サービスとその活用 08 医療サービスとその活用 09 医薬品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社会的対策 ・我が国や世界では、健康課題に対して様々な保健活動や社会的対策などが行われていることを理解する。	提出 課題 行動 観察	提出 課題 パ°フォー マンズ 課題	提出 課題 行動 観察
	2	4			後期 期末 考查	後期 期末 考查	パ°フォー マンズ 課題
	3			11 健康に関する環境づくりと社会参加 ・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることを理解する。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

- ・本校では「保健」を1年次で1単位、2年次で1単位の合計2単位を履修します。
- ・卒業要件の必修教科目なので、必ず履修する必要があります。
- ・1年次では「現代社会と健康」・「安全な社会生活」について学習し、2年次では「生涯を通じる健康」・「健康を支える環境づくり」について学習します。
- ・学習端末タブレットを使用した授業展開をします。
- ・毎時間の提出課題は、電子データでするものや、プリントによるものがあります。

※学習項目等は随時見直し、変更する場合があります。

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーションⅠ	学 年	類 型	単 位 数
				2	全員	1
学習の 目標	・英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り）、話すこと（発表）、書くことの五つの領域の能力と資質を育成する。 ・日常的・社会的な話題について、話される速さや、使用する語句や文、情報量、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、話し手や書き手の意図を理解し、英語でコミュニケーションをとることができる能力と資質を育成する。					
使用教科書	Amity English CommunicationⅠ			副教材等	なし	
評 価	評 価 法		定期考査、小テスト（小）、パフォーマンステスト（パ）、振り返りシート（振）、ワークシート（ワ）			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	各課の内容、文法、語彙、表現、言語の働きを理解し、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けている。		
		b	思考・判断・表現	各課の内容に関連するトピックについての概要、要点、詳細や、話し手や書き手の意図を理解し、それらについての考えや意見を持ち、それを英語で話したり書いたりして伝えている。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	各課の内容に関連するトピックについての概要、要点、詳細や、話し手や書き手の意図を理解し、それらについての考えや意見を持ち、それを英語で話したり書いたりして伝えようとしている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	2	1年生の復習	1年次に学んだ文法事項の知識を身に着けている。 - 時制を区別して、英作文を書くことができる。 - 助動詞を用いて、自分の気持ちを表現することができる。 1年次に学んだ文法事項を用いて、書いたり話したりしようとしている。	(小) (パ) 前期中間考査	(パ) (振) (ワ) 前期中間考査	(振) (ワ)
	5	1					
	6	4	Lesson 7 Serendipity	- 現在完了について理解し、概要や要点を捉える技能を身につけている。 - 現在完了を用いて、自分の経験やセレンディピティについて、考えや気持ちを話して伝えている。 - 現在完了を用いて、自分の経験やセレンディピティについて、考えや気持ちを話して伝えようとしている。 - 世の中にどのようなセレンディピティがあるのかを調べ、発表する。 - 身近にあるセレンディピティについて話し合い、発表する。			
	7	4	Lesson 8 Sapeurs	- 受動態について理解し、概要や要点を捉える技能を身につけている。 - 受動態を用いて、だれかからもらった大切なものについて、考えや気持ちを話して伝えている。 - 受動態を用いて、だれかからもらった大切なものについて、考えや気持ちを話して伝えようとしている。 - 宝物について紹介する。 - サプールの人々の考え方について話し合い、発表する。	(小) (パ) 前期末考査	(パ) (振) (ワ) 前期末考査	(振) (ワ)
	9	3					

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	4	Lesson 9 Special Makeup Effects	・分詞の形容詞的用法について理解し、概要や要点を捉える技能を身につけている。	(小) (パ) 後期 中間 考查	(パ) (振) (ワ) 後期 中間 考查	(振) (ワ)
	11	4		・分詞の形容詞的用法を用いて、好きな映画などについて、考えや気持ちを話して伝えている。			
				・分詞の形容詞的用法を用いて、好きな映画などについて、考えや気持ちを話して伝えようとしている。			
	12	3	Lesson 10 Clean Water	・関係代名詞について理解し、概要や要点を捉える技能を身につけている。			
	1	3		・関係代名詞を用いて、好きな飲み物や将来の夢などについて、考えや気持ちを話して伝えている。			
	2	2		・関係代名詞を用いて、好きな飲み物や将来の夢などについて、考えや気持ちを話して伝えようとしている。			
	3	1	Communicate+2 街で外国人に 道案内する とき	・道案内の表現を理解し、やり取りする技能を身につけている。 ・道案内の場面で、考えや気持ちを話して伝えている。 ・道案内の場面で、考えや気持ちを話して伝えようとしている。	(小) (パ) 学年 末考 査	(パ) (振) (ワ) 学年末 考查	(振) (ワ)

担当者からのメッセージ（学習方法など） <授業の進め方> ・教科書をベースに授業を進めていきます。補助教材としてプリントを用いて学習をしていきます。 ・タブレット PC を用いるので、忘れないようにしてください。 <評価について> ・英語は4技能5領域について総合的に評価します。 ※4技能5領域：読むこと、聴くこと、書くこと、話すこと（やりとり）、話すこと（発表） ・自分の意見を話したり書いたりする活動は、＜思考力・判断力・表現力＞、＜主体的に学習に取り組む態度＞の評価に大きく影響するので、積極的に取り組むようにしてください。 <アドバイス> 英語の授業は、2年次は週に1回となります。積極的に自宅学習に取り組み、知識の定着を図りましょう。分からなければいつでも教科担当に相談してください。一緒に頑張りましょう。
--

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	家 庭		科 目	家庭基礎	学 年	類 型	単 位 数
					2	全 員	2
学習の 目 標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習をとおして、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。						
使用教科書	家庭 707 図説家庭基礎（実教出版）				副教材等	なし	
評 価	評 価 法			ノート、ワークシート、定期考査、小テスト、行動観察、振り返りシート等			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけている。			
		b	思考・判断・表現	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、障害を見通して課題を解決するちからを身につけている。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養おうとしている。			
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	2	家庭科の学び方 第1章 自分らしい生き方 1節 生涯発達する人生 2節 これからの人生をデザインする	【ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動】 ・ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解できる。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実施する。 ・ライフステージごとの発達課題について理解し、それぞれの発達段階で起こりうるライフイベントと関連させて理解することができる。 ・生活設計の方法と生活資源の重要性について理解する。 ・人生を考えるためには経済設計が重要であることを理解する。	ノート	ワークシート	行動観察
		3	3節 青年期を生きる 4節 生活を支える労働 5節 生活時間から見えてくるもの	・自分自身の生活を見つめ、自立へ向けて課題を発見し、将来の発達課題ともかかわらせ自身の将来について思考・判断することができる。 ・職業につく意義や多様化する就業形態について理解する。また、家庭や地域での労働についても重要であることを理解する。 ・毎日がさまざまな生活時間から構成されていることを理解できる。 ・現在の生活時間の状況をふまえ、生活時間と労働との関係について理解できる。			
		3	6節 男女共同参画社会をめざして 7節 現代の家族 8節 家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題	・男女共同参画社会の推進について理解する。 ・固定的性別役割分業やワークバランスなどについて理解できる。 ・さまざまな家族形態について学ぶ。 ・結婚、家族・家庭の形、家族・家庭の役割について理解している。 ・時代とともに変化する家族・家庭について学習し、現在の家族の抱える課題などを多角的に理解する。			
	5	3	9節 家族に関する法律の理念と変化 10節 家族にかかわる法律 第2章 子どもにかかわる 1節 子どもの誕生 2節 からだを発達	・家族に関する法律の理念や現在の動きについて理解する。 ・民法改正や家族に関する法律について理解する。 ・夫婦、親子、相続に関する民法について理解する。 ・青年期の健康が将来の生まれてくる子どもにつながっていることを知り、育てる力について学ぶ。 ・妊娠の成立から誕生までを理解し、その重要性を認識することができる。 ・子どもの身体の成長について、大まかな流れと特徴を学ぶ。 ・誕生から幼児期までの子どもの体の発達について理解する。	ノート	ワークシート	行動観察

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	6	5	3節 運動機能の発達と知的発達 4節 かかわりの中の発達 5節 子どもの生活習慣と健康 6節 子どもの食生活・衣生活 7節 子どもと遊び	・子どものものの見方・感じ方には子ども独特の世界があることを理解する。 ・運動機能の発達と知的発達について理解できる。 ・人の発達において、保育や人とのかかわりがいかに重要であるかを理解できる。 ・子どもの発達について学び、社会性が育っていく過程などについて理解できる。 ・発達段階に応じた子どもの基本的な生活習慣や社会生活習慣とその重要性について理解できる。 ・子どもの食生活・衣生活について理解できる。 ・遊びの意義と形態を理解し、遊びは子どもの発達にとって重要なものであることを理解する。	小 テ ス ト	小 テ ス ト	振 り 返 り シ ー ト
		3	8節 親になることを考えよう 9節 すこやかに育つ環境と支援 10節 子どもを守る法律・制度	・生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。 ・子どもの人間形成には、保育者や周りのひととのかかわりが重要であることが理解できる。 ・現在の子育ての環境や地域社会や国の支援策や課題などについて、情報を収集し、まとめることができる。 ・子どもの発達における豊かな人間関係や地域環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解できる。			
		3	第3章 高齢者とかかわる 1節 高齢社会に生きる 2節 高齢者を知る 3節 高齢者のサポートと介護の心 4節 高齢社会を支えるしくみ	・現在の高齢社会、高齢化の進む社会について統計などより理解することができる。 ・加齢に伴う心身の変化や特徴について理解し、その変化については個人差があることも理解できる。 ・高齢者にとって家族とはどのような存在なのか、高齢者の経済状況や社会参加状況などについて理解を深めることができる。 ・老老介護や認知介護などの課題について理解できる。 ・高齢者をサポートする心持ちや方法を理解できる。 ・高齢期に関する制度、特に介護保険についてなぜこのような制度が必要なのかを理解しまた、高齢社会を社会全体で支える仕組みを理解することができる。	ノ ー ト	ワ ー ク シ ー ト	行 動 観 察
		3	第4章 社会とかかわる 1節 共に生きるために 2節 社会保険制度 3節 社会の一員としての私たちの役割	・社会福祉やインクルージョンの意味・考え方や、支えあう社会づくりの重要性を理解できる。 ・年金・健康保険・雇用保険や、子どもや高齢者などに対する福祉制度など、生涯の社会保障制度について、現在の生活課題と関連させながら理解できる。 ・互助・共助の重要性とボランティア活動の意義について理解できる。	小 テ ス ト	小 テ ス ト	振 り 返 り シ ー ト
		2	第5章 食生活をつくる 1節 私たちの食生活と健康	・生活習慣病、摂食障害、月経異常などと食生活がかかわっていることを理解できる。 ・5大栄養素と水についての人のからだのなかの働き、また、人の体の成分についての基礎的知識を習得できる。			
	7	3	2節 5大栄養素 3節 炭水化物 4節 脂質 5節 たんぱく質	・炭水化物の働き、炭水化物を多く含む食品の特徴について基礎的知識を身に付けることができる。 ・食品によって脂肪酸組成が異なることを知り、バランスよく摂取することの大切さを理解できる。 ・たんぱく質を作るアミノ酸について、特に必須アミノ酸の重要性を理解できる。 ・たんぱく質を多く含む食品の特徴について理解できる。	ノ ー ト	ワ ー ク シ ー ト	行 動 観 察
		2	6節 ミネラル 7節 ビタミン	・ミネラルの種類や、からだの中での働きについての基礎的知識を習得できる。 ・ミネラルを多く含む乳製品や海藻等の特徴について理解できる。 ・ビタミンの種類と、それぞれのもつからだの中での働きについての知識を習得できる。 ・野菜・くだもの・きのこ等のビタミンを多く含む食品について理解できる。	小 テ ス ト	小 テ ス ト	振 り 返 り シ ー ト
		3	8節 その他の食品 9節 食品の選択と表示 10節 食品の衛生	・調味料、香辛料、嗜好食品の種類と特徴について理解できる。 ・特別用途食品や保健機能食品等の種類と特徴、表示などについて理解できる。 ・食品の旬や食品を選択する際に必要な品質表示の見方、また、選択する際のポイントがわかり、食品を適切に選択することができる。 ・食中毒の種類や予防法等について学び、衛生的な調理や食事管理ができるようになる。 ・食品添加物の使用の目的について理解し、安全性についても考えることができる。	前 期 末 考 査	前 期 末 考 査	
	9						

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	3	1 1 節 食料自給率と食のグローバル化 1 2 節 食の未来と環境への取り組み 1 3 節 食事摂取基準 1 4 節 食品群別摂取量のめやす	- 日本の食料自給率についてや輸入食品に頼っている現状・課題について理解できる。 - 限られた資源を有効に活用するために、環境に配慮した食生活や地産地消などの社会的な動きなどを理解できる。 - 食品ロスに配慮した調理実習をできる。 - 食品摂取基準を理解し、何をどれぐらい食べるのかを理解することができる。 - 実際にバランスのよい食事計画につなげることができる。	ノ ー ト	ワ ー ク シ ー ト	行 動 観 察
	11	6	1 5 節 献立作成 1 6 節 調理の基本	- 食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を利用しながら、実際の生活において家族のライフステージも考えながら献立を作成することができる。 - 栄養・食品に関する科学的な知識や調理の基礎的な技術を身に着け、それを実際の食生活に生かすことができる。 - 調理実習において、作業の流れを考え、効率について判断しながらとりくむことができる。	調 理 実 習 レ ポ ー ト	調 理 実 習 レ ポ ー ト	調 理 実 習
		4	第6章 衣生活をつくる 1 節 人と衣服のかかわり 2 節 健康で安全な衣服 3 節 衣服素材の種類と特徴 4 節 衣服素材の性能と改善	- 服が着用されるようになった説について、その背景や風土などを考えながら理解できる。 - 自然環境と衣服のかかわり、社会環境と衣服の関係から、衣服が持つ機能を理解することができる。 - 衣服は年齢によっても必要とされる要素が違うということが理解できる。 - 健康と安全に配慮した着装について理解できる。 - 繊維の種類と特徴と用途が理解できる。 - 織物・編物の種類や構造が理解できる。 - 衣服素材の保温性や通気性などのさまざまな特徴を知り、どのような素材がどのような性質をもつのか理解できる。 - 繊維の改質や加工により付加価値がつき、現在の私たちの衣生活に浸透していることが理解できる。	ノ ー ト	ワ ー ク シ ー ト	行 動 観 察
		3	5 節 衣生活の計画購入 6 節 衣服の管理 7 節 家庭での洗濯・保管 8 節 持続可能な衣生活をつくる	- 実生活において、衣類の入手～処分まで、計画的な衣生活を営む知識を身につけている。 - 衣生活の購入の際、自分のサイズを把握し、表示から必要な情報を読み取ることができる。 - 湿式洗濯・乾式洗濯などの洗濯の種類や、洗剤の働きについて理解できる。 - 衣服の表示の見方、洗濯の表示知識を活かし、適切な洗濯や手入れができる。 - 衣服材料・衣服管理・整理についての基礎的な知識を身につけ、衣服管理において適切な判断ができる。 - 衣類の製造には、多くのエネルギーが使われていることを知り、衣類と資源についての関係が理解できる。 - 洗濯の環境への影響、廃棄処分における環境への影響を考え、リユースなど、環境に配慮した衣生活につなげることができる。	小 テ ス ト	小 テ ス ト	振 り 返 り シ ー ト
	12	5	第7章 住生活をつくる 1 節 人と住まいのかかわり 2 節 平面計画からみた住空間 3 節 ライフステージと住まいの計画	- 住まいの機能や地域性豊かな住まいの文化を理解できる。 - 戦後の生活様式の変化や二つの起居様式について理解できる。 - 個人生活・家事労働・協働生活・整理衛生、それぞれの空間における機能を理解できる。 - 平面図を読み取ることができる。 - すべての人にとって住みやすい住環境について理解できる。 - ライフステージに応じた住まいについて思考・判断することができる。	後 期 中 間 考 査	後 期 中 間 考 査	

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	1	4	4 節 健康に配慮した住まい 5 節 安全な住まい 6 節 持続可能な住まい	・日照・日射・採光・照明、通風・換気、騒音、冷暖房など、健康的な住まい環境における基本的な知識が身についている。 ・住まいの清掃やメンテナンスについて理解し、快適な生活につなげることができる。 ・地震や台風などの自然災害、また、火災・盗難などの人為的な災害とその対策について理解できる。 ・住まいづくりや住環境について理解できる。 ・住まいの維持と管理の方法について知識が身についている。 ・暮らしやすい住まいについて、住空間だけでなく、周りの環境とも関係していることを理解できる。	ノ ー ト	ワ ー ク シ ー ト	行 動 観 察
	2	4	第8章 経済的に自立する 1 節 日々の収入・支出を把握する 2 節 社会と家計の変化 3 節 長期的な経済計画を立てる 4 節 経済のなかの家計	・家計の構成がわかる。 ・収入と支出の種類と特徴がわかる。 ・近年の家計の特徴について理解できる。 ・給与の使い方をシュミレーションし、思考することができる。 ・経済的な自立に向けて、長期的な経済設計が立てられるようになる。 ・保険や金融商品などの種類や特徴について知識が身についている。 ・国民経済・国際経済と家計のつながりについて理解できる。 ・家計管理の重要性を理解できる。	小 テ ス ト	小 テ ス ト	振 り 返 り シ ー ト
		4	第9章 消費行動を考える 1 節 契約と主体的な消費行動 2 節 多様化する販売方法と問題商法 3 節 消費を守る制度・法律	・契約の基本的なしくみを理解できる。 ・自分たちが消費行動を日々行っている消費者であることを理解し、消費行動においては、都度意思決定が行われていることが理解できる。 ・多様化する販売方法の種類や内容について知識が身についている。 ・問題商法の被害を未然に防いだり、早期に解決するための方法について思考・判断ができる。 ・消費者契約法・特定商取引などの法律、クーリング・オフ制度や製造物責任法など、消費生活にかかわる法律・制度を理解できる。	ノ ー ト	ワ ー ク シ ー ト	行 動 観 察
	3	2	4 節 多様化する支払い方法 5 節 消費者の権利と責任 6 節 持続可能な社会の構築 7 節 持続可能な社会をめざす取り組み	・クレジットカードなどの消費者信用を前提とした支払い方法の仕組みを理解できる。 ・返済方法や金利の違いによる差額を実際に計算し、結果から思考・判断できる。 ・消費者問題や消費者運動、消費関連の法律行政について理解できる。 ・消費者の権利と責任について理解できる。 ・海洋プラスチック問題や地球温暖化の現状について理解できる。 ・循環型社会を形成するための法律がわかる。 ・実際の生活において、環境に配慮した消費行動をとることができる。	後 期 末 考 査	後 期 末 考 査	

担当者からのメッセージ（学習方法など）
<授業の進め方> ・教科書を基本に授業を展開します。 <持ち物> ・教科書、ファイル、筆記用具、タブレット <アドバイス> ・学習項目の各単元に興味・関心を持ち、積極的に取り組んでください。 <その他> ・生徒の状況に応じて、学習項目にかかる指導時間や内容については変更することがあります。

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業	科 目	実習 (機械類型)	学 年 2	類 型 機械	単 位 数 3
学習の 目標	工業に関する技術を実際の作業を通して総合的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとする態度を養う。工業の技術に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づき工業技術の発展に対応し解決する力を養う。					
使用教科書	なし			副教材等	新版機械実習 1 （実教出版）	
評 価	評 価 法		行動観察、レポート、作品			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技術	計測器具・工具・機械等について、構造・原理・使用方法を理解し、安全に作業することができる。作業手順を把握し、正確に作業することができる。		
		b	思考・判断・表現	実験や製作工程での状況や結果に着目し、作品の製作に生かすことができる。また、毎回の取り組みを考察し、的確に表現して伝えることができる。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	安全作業に注意をはらい、最後まで粘り強く集中して作業し、作品を完成させることができる。工業技術について主体的に興味関心を持ち、その改善を目指して意欲的積極的に学ぶ態度を身に付けている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	6	オリエンテーション	○実習の年間計画と評価方法について理解する。 ○実習全般における安全作業について理解する。 ○学ぶ目的を理解し、工業の基礎となる知識や技術に興味・関心を持つとともに、実習に主体的に取り組む態度を身につけている。 ○レポートにより、実習の目的や内容を捉え、事後にも役立つように思考して判断力を高め、的確な表現力を身につけている。 ○安全作業に主体的に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組む態度を身につけている。	レポート	レポート	行動観察
	5	3	旋盤実習1	○旋盤各部の名称を覚えて、旋盤の取り扱いや操作方法を習得する。 ○旋盤作業における安全な作業を習得する。 ○スクロールチャックへの工作物の取り付け・取りはずしを習得する。 ○バイトの種類や要素、取り扱い方を理解し、刃物台への取り付け・取りはずしを習得する。 ○マイクロメータカラーの目盛を正しく読み取ることができる。 ○ノギスを使用し、製品寸法を正しく読み取ることができる。 ○外丸削り・端面削りにより、段付き丸棒の1段目・2段目を加工する。	レポート	レポート	行動観察
		3	旋盤実習2	○外丸削り・端面削りにより、段付き丸棒の3段目・4段目を加工する。 ○ノギスを使用し製品寸法を正しく読み取り、製品を正しい寸法で仕上げることができる。 ○旋盤作業を安全に行うことができる。	作品	作品	行動観察
		3	旋盤実習3	○外丸削り・端面削りにより、段付き丸棒の5段目・6段目を加工する。 ○ノギスを使用し製品寸法を正しく読み取り、製品を正しい寸法で仕上げることができる。 ○旋盤作業を安全に行うことができる。	行動観察	行動観察	
		3	旋盤実習4	○外丸削り・端面削りにより、段付き丸棒の7段目・8段目を加工し、段付き丸棒を完成させる。 ○ノギスを使用し製品寸法を正しく読み取り、製品を正しい寸法で仕上げることができる。 ○旋盤作業を安全に行うことができる。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	6	3	フ ラ イ ス 盤 実 習 1	○フライス盤各部の名称を覚えて、フライス盤の取り扱いや操作方法を習得する。 ○フライス盤作業における安全な作業を習得する。 ○正面フライスの特徴や加工方法を理解し、正しく切削加工をすることができる。 ○マイクロメータカラーの目盛を正しく読み取ることができる。 ○ノギスを使用し、製品寸法を正しく読み取ることができる。 ○正面フライス削りにより、立方体の第1面・第2面を加工する。	レポ ート 作品 行 動 観 察	レポ ート 作品 行 動 観 察	行 動 観 察
		3	フ ラ イ ス 盤 実 習 2	○正面フライス削りにより、立方体の第3面・第4面を加工する。 ○ノギスを使用し製品寸法を正しく読み取り、製品を正しい寸法で仕上げることができる。 ○フライス盤作業を安全に行うことができる。			
		3	フ ラ イ ス 盤 実 習 3	○正面フライス削りにより、立方体の第5面・第6面を加工する。 ○ノギスを使用し製品寸法を正しく読み取り、製品を正しい寸法で仕上げることができる。 ○フライス盤作業を安全に行うことができる。			
		3	フ ラ イ ス 盤 実 習 4	○正面フライス削りにより、立方体の寸法が外れている部分を追加工し、立方体を完成させる。 ○ボール盤により、立方体にサイコロの目を加工する。 ○ハイトゲージの取り扱いや操作方法を習得する。 ○フライス盤などを安全に使用することができる。			
	7	3	ガ ス 溶 接 実 習 1	○ガス溶接装置についての取り扱いや操作方法を習得する。 ○保護具を正しく使用し、安全に作業することができる。 ○酸素やアセチレンの性質について理解する。 ○酸素やアセチレンの圧力を調節し、標準炎に調節することができる。 ○溶接トーチを正確に動かし、正常なビードを置くことができる。 ○突き合わせ溶接により、課題作品を仕上げるることができる。	レポ ート 作品 行 動 観 察	レポ ート 作品 行 動 観 察	行 動 観 察
		3	ガ ス 溶 接 実 習 2	○溶接トーチを正確に動かし、正常なビードを置くことができる。 ○保護具を正しく使用し、安全に作業することができる。			
		3	ガ ス 溶 接 実 習 3	○突き合わせ溶接により、2枚の金属片を溶接する。 ○保護具を正しく使用し、安全に作業することができる。			
		3	ガ ス 溶 接 実 習 4	○突き合わせ溶接により、2枚の金属片を溶接する。 ○保護具を正しく使用し、安全に作業することができる。			
		3	ガ ス 溶 接 実 習 5	○箱型形状の、第1面と第2面を溶接する。 ○保護具を正しく使用し、安全に作業することができる。			
		3	ガ ス 溶 接 実 習 6	○箱型形状の、第3面と第4面を溶接する。 ○保護具を正しく使用し、安全に作業することができる。			
		3	ガ ス 溶 接 実 習 7	○箱型形状の、第5面を溶接する。 ○保護具を正しく使用し、安全に作業することができる。			
		3	ガ ス 溶 接 実 習 8	○箱型形状の気密性を確認し、穴がある場合には補修を行って箱型形状を完成させる。 ○保護具を正しく使用し、安全に作業することができる。			
	9	3	ガ ス 溶 接 実 習 5	○箱型形状の、第1面と第2面を溶接する。 ○保護具を正しく使用し、安全に作業することができる。			
		3	ガ ス 溶 接 実 習 6	○箱型形状の、第3面と第4面を溶接する。 ○保護具を正しく使用し、安全に作業することができる。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	3	旋盤実習 5	○外丸削りにより、作品の外形加工をする。 ○ノギスを使用し製品寸法を正しく読み取り、製品を正しい寸法で仕上げる ことができる。 ○旋盤作業を安全に行うことができる。	レポ ート 作品 行 動 観 察	レポ ート 作品 行 動 観 察	行 動 観 察
		3	旋盤実習 6	○おねじ切りにより、作品におねじを追加加工する。 ○ノギスを使用し製品寸法を正しく読み取り、製品を正しい寸法で仕上げる ことができる。 ○旋盤作業を安全に行うことができる。			
		3	旋盤実習 7	○おねじ切りにより、作品におねじを追加加工する。 ○ノギスを使用し製品寸法を正しく読み取り、製品を正しい寸法で仕上げる ことができる。 ○旋盤作業を安全に行うことができる。			
		3	旋盤実習 8	○突っ切りにより、製品部分を切り落とす。 ○端面削りにより端面をきれいに整え、寸法を合わせて作品を完成させる。 ○ノギスを使用し製品寸法を正しく読み取り、製品を正しい寸法で仕上げる ことができる。 ○旋盤作業を安全に行うことができる。			
	11	3	フライス盤実 習 5	○正面フライス削りにより、角柱を寸法通りに加工する。 ○ノギスを使用し製品寸法を正しく読み取り、製品を正しい寸法で仕上げる ことができる。 ○フライス盤作業を安全に行うことができる。	レポ ート 作品 行 動 観 察	レポ ート 作品 行 動 観 察	行 動 観 察
		3	フライス盤実 習 6	○正面フライス削りにより、角柱に斜め面を追加加工する。 ○ノギスを使用し製品寸法を正しく読み取り、製品を正しい寸法で仕上げる ことができる。 ○フライス盤作業を安全に行うことができる。			
		3	フライス盤実 習 7	○側面削りにより、角柱に溝を追加加工する。 ○ノギスを使用し製品寸法を正しく読み取り、製品を正しい寸法で仕上げる ことができる。 ○フライス盤作業を安全に行うことができる。			
		3	フライス盤実 習 8	○正面フライス削り・側面削りにより、寸法の外れている部分を追加加工す る。 ○ボール盤により、角柱に通し穴を加工する。 ○タップにより、角柱にねじ穴を加工する。 ○ノギスを使用し製品寸法を正しく読み取り、製品を正しい寸法で仕上げる ことができる。 ○フライス盤作業を安全に行うことができる。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	12	3	アーク溶接実習 1	○アーク溶接装置についての取り扱いや操作方法を習得する。 ○アーク溶接の原理を理解し、安全に作業することができる。 ○保護具を正しく使用し、安全に作業することができる。 ○溶接棒を正しく動かし、アークを発生させることができる。 ○突き合わせ溶接により、課題作品を仕上げるることができる。	レポ ート 作品 行 動 観 察	レポ ート 作品 行 動 観 察	行 動 観 察
		3	アーク溶接実習 2	○溶接棒を正しく動かし、アークを発生させることができる。 ○保護具を正しく使用し、安全に作業することができる。			
		3	アーク溶接実習 3	○突き合わせ溶接により、2枚の金属板を溶接する。 ○保護具を正しく使用し、安全に作業することができる。			
		3	アーク溶接実習 4	○突き合わせ溶接により、2枚の金属板を溶接する。 ○保護具を正しく使用し、安全に作業することができる。			
	1	3	3 D C A D 実習 1	○CADシステムの必要性や、産業界で活用されていることを理解する。 ○二次元CADと三次元CAD(3DCAD)との共通点や相違点を理解する。 ○汎用3DCADソフトを使用し、二次元図面の作成や編集をすることができる。	レポ ート 作品 行 動 観 察	レポ ート 作品 行 動 観 察	行 動 観 察
		3	3 D C A D 実習 2	○汎用3DCADソフトを使用し、簡単な図形(三次元図形)の作成ができる。			
		3	3 D C A D 実習 3	○汎用3DCADソフトを使用し、より複雑な図形の作成ができる。 ○完成した図形を編集して形を変更することができる。			
		3	3 D C A D 実習 4	○汎用3DCADソフトを使用し、部品作成をすることができる。			
		3	3 D C A D 実習 5	○汎用3DCADソフトを使用して作成した部品(3D図面)をバーチャル空間で組立てることができる。			

担当者からのメッセージ（学習方法など） <持ち物> 教科書、筆記用具、実習服・実習靴・実習帽 <アドバイス> 定期考査は実施しないので、毎回の授業での取組が一層大切となります。 実習服・実習靴・実習帽は必ず着用し、安全に係わる諸注意は厳守してください。 レポート作成のため、教科書、筆記用具を忘れず持参しましょう。
--

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業	科 目	製図 (機械類型)	学 年	類 型	単 位 数
				2	機械	1
学習の 目標	日本産業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて、製図について理解する。図面による様々な表現方法を学び、製品の図面作成能力、図面から製品情報を読み取る能力の向上を目指す。					
使用教科書	製図（実教出版）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法		ワークシート、定期考査、小テスト、行動観察、振り返りシート			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技術	日本産業規格における製図の一般原則を身に付け、図面で表現された部品がどのような形状なのかを読み取ることができる。補助投影図や片断面図といった各種図面表現を理解し、正確に描くことができる。		
		b	思考・判断・表現	各種の投影法や製図の一般原則を身に付け、製造する部品の図面を描くことができる。工業製品や工作方法に対する理解を深め、適した図面表現を選択し、加工のしやすい図面を描くことができる。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	図面の読み方・描き方を学習するなかで、立体模型や三次元データなどの補助教材を活用しながら、理解しようと粘り強く取り組んでいる。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習 項目	学習内容 (単元の目標・評価基準等)	評価方法		
					a	b	c
前期	4	3	投影図のかき方	○第三角法での表現方法について復習する。正面図、平面図、右側面図などの各投影図の意味と関係を理解する。 ○等角図の表現と、第三角法での投影図との関係を理解する。 ○立体模型や三次元データから、その正面図、平面図、右側面図を描くことができる。 ○等角図から、その投影図を描くことができる。	ワークシート 小テスト	小テスト 振り返りシート	行動観察 振り返りシート
	5	2					
	6	2	立体的な図示法	○等角図での表現方法について学習する。正面図、平面図、右側面図などの各投影図と、等角図の関係を理解する。 ○立体模型や三次元データから、その等角図を描くことができる。 ○投影図から、その等角図を描くことができる。	ワークシート 小テスト 前期中間考査	小テスト 振り返りシート 前期中間考査	行動観察 振り返りシート
		3					
		1					
	7	3	不足線の追加	○投影法による表現方法を理解する。 ○二つの投影図より、物体の形状を捉えることができる。別の一つの投影図に不足している線を書き加えて、投影図を完成させることができる。 ○三次元データなどを参考にして、投影図に不足している線を判別することができる。	ワークシート 小テスト	小テスト 振り返りシート	行動観察 振り返りシート
	9	3					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
後期	10	4	片断面図のかき方	○片断面図による表現方法を理解する。 ○三次元データなどを参考にして課題の形状を把握し、断面図示した場合の表現を理解する。 ○二つの投影図より、片断面図を描くことができる。	ワークシート 小テスト	小テスト 振り返りシート	行動観察 振り返りシート
	11	1					
	12	3	補助投影図のかき方	○補助投影図による表現方法を理解する。 ○三次元データなどを参考にして課題の形状を把握し、面に対して直角に投影した場合にどの様に見えるのかを理解する。 ○等角図と一つの投影図より、面に対して直角に投影した補助投影図を描くことができる。	ワークシート 小テスト 後期中間考査	小テスト 振り返りシート 後期中間考査	行動観察 振り返りシート
		2					
	1	2	展開図のかき方	○展開図による表現方法を理解する。 ○三次元データや模型などを参考にして、形状を展開した場合にどのように見えるのかを理解する。 ○二つの投影図より、展開図を描くことができる。	ワークシート 小テスト	小テスト 振り返りシート	行動観察 振り返りシート
		2					
	2	3	投影図のかき方	○投影法による表現方法を理解する。 ○立体模型や三次元データから、その正面図、平面図、右側面図を描くことができる。 ○等角図より、その正面図、平面図、右側面図を描くことができる。	ワークシート 小テスト 後期期末考査	小テスト 振り返りシート 後期期末考査	行動観察 振り返りシート
	3	1					

担当者からのメッセージ（学習方法など）

<授業の進め方>

教科書と、授業で配布するワークシートを元に授業を展開します。

<持ち物>

教科書、ファイル、筆記用具、三角定規、コンパス、タブレット

<アドバイス>

立体形状の投影図や等角図をかくためには、繰り返し練習が必要になります。立体模型や三次元データを活用し、簡単な形状から少しずつ、複雑な形状の図面もかくことが出来るように練習をするようにしてください。

<その他>

生徒の状況に応じて、学習項目にかかる指導時間や内容については変更することがあります。

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業	科 目	機械工作	学 年	類 型	単 位 数
				2	機械	2
学習の 目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、機械材料の加工や工作に必要な資質・能力を育成することを目指す。					
使用教科書	機械工作 1 ・ 機械工作 2 （実教出版）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法		ノート、プリント、小テスト、振り返りシート、行動観察、定期考査			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技術	基礎的な知識と技術を理解し、工業の発展と調和のとれたありかたや現代社会における工業の意義や役割を理解している。また、ものづくりでのいろいろな場面で問題解決を試みることができるように相互に関連させて理解している。		
		b	思考・判断・表現	機械工作に関する諸問題の解決をめざして自ら思考を深め、基礎的基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。また、その成果を適切に表現することができる。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	身近な製品に関心を払うなどして、機械工作に関する基礎的な知識と技術に関心を持ち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに実際に活用しようとする創造的実践的な態度を身に付けている。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	4	第1章 工業計測と測定用機器	○工業測定と計測機器について、測定方法と計測機器の原理及び機能を踏まえて理解している。 ○機械における測定の意味や役割及び精度と誤差について理解している。 ○ノギス・マイクロメータの目盛りを読むことが出来る。			
	5	4	第2章 機械材料 1節. 材料の機械的性質	○材料の機械的性質と関連付けて、機械材料に望まれる性質を理解している。 ○機械的性質の要素を理解している。 ○「荷重」「応力」「引張強さ」の意味を理解し、説明することが出来る。 ○応力－ひずみ線図の各点の名称と、その意味を答えることが出来る。	ノート プリント 小テスト 前期中間考査	ノート プリント 小テスト 前期中間考査	行動観察 振り返りシート
	6	3 2	2節. 金属の結晶と加工性	○金属の状態変化と関連付けて結晶構造及び金属の変態について理解している。 ○金属材料の変形（弾性変形、塑性変形）について理解している。 ○金属の加工性（可塑性、展延性、被削性）について理解している。			
		4	3節. 鉄鋼材料 1. 炭素鋼	○鉄鋼材料中最も多く用いられる炭素鋼について理解している。 ○炭素鋼の中の炭素含有量が炭素鋼の機械的性質にどのような影響を与えるか説明することができる。 ○4種類の熱処理を理解し、それぞれを説明することができる。 ○炭素鋼の種類とその用途について理解している。	ノート プリント 小テスト	ノート プリント 小テスト	行動観察 振り返りシート

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	6	2	2. 合金鋼・特殊鋼・鋳鉄・鋳鋼	○合金鋼について理解している。 ○合金鋼と炭素鋼の違いを説明できる。 ○ステンレス鋼と炭素鋼との違いを説明できる。 ○特殊用途合金鋼について理解している。 ○鋳鉄・鋳鋼について理解している。 ○炭素鋼と鋳鉄の違いを炭素含有量と関連させて説明することができる。	ノート プリント 小テスト 前期 期末 考査	ノート プリント 小テスト 前期 期末 考査	行動 観察 振り 返し シート
	7	1					
		5	4 節. 非鉄金属	○鉄を主原料とする金属材料と非鉄金属との違いを理解している。 ○アルミニウム・マグネシウム・チタン・銅の特徴を理解している。 ○各非鉄金属の使用用途を理解するとともに、鉄を主原料とする金属ではなく非鉄金属が使用される理由を理解している。			
	9	3	5 節. 非金属材料	○プラスチック、セラミックス・ガラスの特徴を理解している。 ○プラスチックを取り巻く問題について、主体的に考え、まとめることができる。 ○金属材料との違いを説明できる。			
		2	6 節. 各種の材料	○機能性材料、複合材料について理解している。 ○機能性材料は特別な目的のために開発されたものであることを理解し、代表的な機能性材料の特徴や使用用途を理解している。 ○複合材料の母材と強化材について、その特徴を理解している。			

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	6	第3章 鑄造 1節. 鑄造法と鑄型	○鑄造を理解している。 ○他の加工法と比べて、鑄造がより必要とされる場面や、逆に鑄造が向いていない場面を理解している。 ○砂型鑄造法の工程について説明するとともに、各用語の意味を理解している。 ○金型鑄造法の工程について説明することができる。 ○ダイカスト法について理解している。	ノート プリント	ノート プリント	行動観察 振り 返り シート
		2	2節. 金属の溶解方法と鑄物の品質	○よく鑄造を行う金属を融点順に並べ替えることができる。 ○溶解炉の種類とその特徴を理解している。 ○鑄物の不良が起こる原因と、主な対策を説明することができる。	小テスト	小テスト	
	11	2					
		1	第4章 溶接と接合 1節. 溶接と接合	○接合方法の大分類を理解している。 ○溶接の分類を理解している。 ○工業技術基礎や実習で行っている溶接が、どの種類の溶接に分類されているか理解している。 ○ねじやリベットによる接合方法に比べて、どのような点がすぐれているのか説明することができる。			
	12	3	2節. ガス溶接とガス切断	○工業技術基礎で行ったガス溶接と関連付けて、ガス溶接の手順や注意点を説明することができる。 ○ガス溶接及びガス切断のメカニズムを理解している。 ○ガス切断における酸素の働きを理解している。 ○ガス切断の作業で予想される危険性について説明することができる。	ノート プリント	ノート プリント	行動観察
		2	3節. アーク溶接とアーク切断	○実習で行うアーク溶接と関連付けて、アーク溶接の手順や注意点を説明することができる。 ○アーク溶接の原理、メカニズムを理解している。 ○アーク溶接の分類が理解できている。 ○アークとはどのような現象か説明することができる。	小テスト 後期 中間 考査	小テスト 後期 中間 考査	振り 返り シート
		3	4節. 抵抗溶接	○抵抗溶接の原理、メカニズムを理解している。 ○抵抗溶接の分類が理解できている。 ○同じ電気を用いるアーク溶接と比べて、どのような特徴があるか説明することができる。			
		2	5節. いろいろな溶接法	○ガス溶接、アーク溶接、抵抗溶接以外にどのような溶接があるのかを理解している。 ○各溶接法がどのような場合に適しているのか理解している。			

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
後期	1	3	第5章 塑性加工 1節. 塑性加工の分類	○塑性加工を理解している。 ○塑性加工の分類を理解している。 ○塑性加工に適した素材や、適した場面を理解している。	ノート プリント 小テスト 後期 期末 考查	ノート プリント 小テスト 後期 期末 考查	行動観察 振り返りシート
		3	2節. 素材の加工	○塑性加工ができる素材にするまでの加工について理解している。 ○インゴット、スラブ、ビレットの違いを説明することができる。 ○身の回りの構造物で、どのような形鋼があるのかを自分で見つけることができる。			
	2	3	3節. プレス加工	○プレス加工の特徴を理解している。 ○せん断加工とはどのような加工法か説明することができる。 ○曲げ加工とはどのような加工法か説明することが出来る。 ○深絞り加工とはどのような加工法か説明することが出来る。			
		4	4節. 鍛造	○鍛造の特徴を理解している。 ○鍛造品と切削加工品の違いを説明することができる。 ○鍛造によって作られた製品を自分で見つけることが出来る。 ○鋳造品に比べて鍛造品がどのようにすぐれているのか説明することができる。			
	3	4	1年間のまとめ	○炭素鋼、合金鋼、非鉄金属の特徴について理解している。 ○プラスチックに関する諸課題について主体的に考えることができる。 ○鋳造、溶接、塑性加工について理解したうえで、それぞれの加工法を比較した時の長所短所について説明することができる。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）

<授業の進め方>

教科書を基本に授業を展開します。

<持ち物>

教科書、ノート、筆記用具、タブレット

<アドバイス>

材料の性質や特性、各種機械加工法を学びます。初めて聞く単語も多くあるので、授業をしっかりと聞いて学習してください。分からないことがあれば放置せずに質問してください。

<その他>

生徒の状況に応じて、学習項目にかかる指導時間数や内容については変更することがあります。

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業		科 目	実習 (電気類型)	学 年 2	類 型 電気	単 位 数 3
学習の 目標	工業に関する技術を実際の作業を通して総合的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとする態度を養う。工業の技術に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づき工業技術の発展に対応し解決する力を養う。						
使用教科書	なし				副教材等	新版電気・電子実習（実教出版）	
評 価	評 価 法			行動観察、レポート、作品			
	評 価 観 点 の 趣 旨	a	知識・技術	計測器具・工具等について、構造・原理・使用方法を理解し、安全に作業することができる。作業手順を把握し、正確に作業することができる。			
		b	思考・判断・表現	実験や製作工程での状況や結果に着目し、作品の製作に生かすことができる。また、毎回の取り組みを考察し、的確に表現して伝えることができる。			
		c	主体的に学習に取り組む態度	安全作業に注意をはらい、最後まで粘り強く集中して作業し、作品を完成させることができる。工業技術について主体的に興味関心を持ち、その改善を目指して意欲的積極的に学ぶ態度を身に付けている。			
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。						

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	6	オリエンテーション	○実習の年間計画と評価方法について理解する。 ○実習全般における安全作業について理解する。 ○学ぶ目的を理解し、工業の基礎となる知識や技術に興味・関心を持つとともに、実習に主体的に取り組む態度を身につける。 ○レポートにより、実習の目的や内容を捉え、事後にも役立つように思考して判断力を高め、的確な表現力を身につける。 ○安全作業に主体的に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組む態度を身につけている。	レポート	レポート	行動観察
	4	3	電気工事实習1	○ケーブルストリッパーの使い方を習得する。 ○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。	レポート	レポート	行動観察
	5	3	電気工事实習2	○各種ケーブル(VVF・VVR・EM-EEF)の施工法を習得する。 ○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。	作品	作品	
		3	電気工事实習3	○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。	行動観察	行動観察	
		3	電気工事实習4	○工具の使い方が適切に使用できるようにする。 ○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。			
		3	電気工事实習5	○三路スイッチを用いた回路の施工法を習得する。 ○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。			

	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容（単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法			
					a	b	c	
前 期	6	3	電気工事实習 6	○配線用遮断器や端子台などの施工法を習得する。 ○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。	レポ ート	レポ ート	行 動 観 察	
					作品	作品		
		3	電気工事实習 7	○スイッチボックス(取付枠・わたり線等)の施工法を習得する。 ○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。	行 動 観 察	行 動 観 察		
	7	3	電気工事实習 8	○露出型器具(ランプレセプタクル・コンセント)の施工法を習得する。 ○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。				
		3	電気工事实習 9	○パイロットランプを用いた回路の施工法を習得する。 ○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。				
		3	電気工事实習 10	○引掛けシーリング(丸形・角形)の施工法を習得する。 ○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。				
		3	電気工事实習 11	○アウトレットボックスの施工法を習得する。 ○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。				
		3	電気工事实習 12	○可とう性合成樹脂管(PF管)の施工法を習得する。 ○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。				
		9	3	電気工事实習 13	○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。			
			3	電気工事实習 14	○ポリエチレン製のケーブルの施工法を習得する。 ○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。			
			3	電気工事实習 15	○アウトレットボックス及び配線用遮断器の施行について理解を深める。 ○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。			
	3		電気工事实習 16	○ビニル絶縁電線ビニルシースケーブル丸形の施行方法について理解する。 ○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。				

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容（単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	3	電気工事实習 17	○金属管の加工と各工具・器具の使い方を習得する。 ○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。	レポ ート	レポ ート	行 動 観 察
				作品	作品		
		3	電気工事实習 18	○四路スイッチを用いた回路の施工法を習得する。 ○電気工事をする上での注意事項を守り、積極的に自ら作業をすることができる。	行 動 観 察	行 動 観 察	
	3	電気工事实習 19	○第二種電気工事士実技の過去問題をするにより、電気工事士に求められている力を付ける。 ○今までの習得したことを使い複雑化から課題の製作まで時間内にミスなく綺麗に施行することを目指す。				
	3	電気工事实習 20	○第二種電気工事士実技の過去問題をするにより、電気工事士に求められている力を付ける。 ○今までの習得したことを使い複雑化から課題の製作まで時間内にミスなく綺麗に施行することを目指す。				
	11	3	電気工事实習 21	○第二種電気工事士実技の過去問題をするにより、電気工事士に求められている力を付ける。 ○今までの習得したことを使い複雑化から課題の製作まで時間内にミスなく綺麗に施行することを目指す。			
		3	電気工事实習 22	○第二種電気工事士実技の過去問題をするにより、電気工事士に求められている力を付ける。 ○今までの習得したことを使い複雑化から課題の製作まで時間内にミスなく綺麗に施行することを目指す。			
		3	電気工事实習 23	○第二種電気工事士実技の過去問題をするにより、電気工事士に求められている力を付ける。 ○今までの習得したことを使い複雑化から課題の製作まで時間内にミスなく綺麗に施行することを目指す。			
	12	3	電気工事实習 24	○第二種電気工事士実技の過去問題をするにより、電気工事士に求められている力を付ける。 ○今までの習得したことを使い複雑化から課題の製作まで時間内にミスなく綺麗に施行することを目指す。			
3		電気工事实習 25	○第二種電気工事士実技の過去問題をするにより、電気工事士に求められている力を付ける。 ○今までの習得したことを使い複雑化から課題の製作まで時間内にミスなく綺麗に施行することを目指す。				
3		電気電子制御実習 1	○マイコンを用いた制御対象回路の作成をすることができる。				
	1	3	電気電子制御実習 2	○マイコンの回路を理解し、物づくりに対して興味関心を持つようとしている。			

学期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容（単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	1	3	電気電子制御実習 3	○作成した制御対象回路を動作させるためのプログラムを作成することができる。	レポ ート	レポ ート	行動 観察
	2	3	電気電子制御実習 4	○マイコンの使い方を学び、ハードウェアとソフトウェアが密接に繋がっているのを理解しようとしている。	作品	作品	
		3	電気計測実習 1	○誤差・相対誤差・有効数字など、基本的な計測の理論を理解する。	行動 観察	行動 観察	
		3	電気計測実習 2	○電流計・電圧計など計測器の基本的な使用法を習得する。			
		3	電気計測実習 3	○電気基礎などの座学で学習した理論を計測により確認をする。			
		3	電気計測実習 4	○回路の動作を把握するために、計測が重要なことを理解し興味を持って理解しようとしている。			

担当者からのメッセージ（学習方法など）							
<持ち物> 教科書、筆記用具、実習服・実習靴 <アドバイス> 定期考査は実施しないので、毎回の授業での取組が一層大切となります。 実習服・実習靴・実習帽は必ず着用し、安全に係わる諸注意は厳守してください。 レポート作成のため、教科書、筆記用具を忘れず持参しましょう。 電気や情報に興味があるよう、電気基礎や工業情報数理で学習した理論や内容を、教科書などで確認しながら実験・実習を進めるとよい。							

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業	科 目	製図 (電気類型)	学 年	類 型	単 位 数
				2	電気	1
学習の 目標	日本産業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて、製図について理解する。図面による様々な表現方法を学び、製品の図面作成能力、図面から製品情報を読み取る能力の向上を目指す。					
使用教科書	製図（実教出版）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法		ワークシート、定期考査、小テスト、行動観察、振り返りシート			
	評価 観点 の 趣 旨	a	知識・技術	日本産業規格における製図の一般原則を身に付け、図面で表現された部品がどのようなものなのかを読み取ることができる。		
		b	思考・判断・表現	図の一般原則を身に付け、電気配線の図面を描くことができる。電気部品などの工業製品や配線作業方法に対する理解を深め、配線図面を単線図から複線図に直したり、材料寸法を求めることができる。		
		c	主体的に学習に取り組む態度	図面の読み方・描き方を学習するなかで、実際に配線工事作業が出来るように補助教材を活用しながら、理解しようと粘り強く取り組んでいる。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（１～５の５段階）にまとめます。					

学期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容（単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	4	3	屋内配線図の 基礎	○屋内配線図の電灯・電力設備の図記号について学習する ○図記号から実際に使用する電気機器を把握できる ○電灯・電力設備の単線図の複線化の方法について学習する ○屋内配線図より実際に配線するための図に直すことができる ○電灯・電力設備の配線図より、実際のケーブル寸法及び材料の選別をすることができる ○実際の配線工事をする場合の材料やケーブル寸法を考える必要があるのを理解する ○情報設備の図記号について学習する ○図記号から実際に使用する情報機器を把握することができる ○情報設備の単線図の複線化の方法について学習する ○情報設備の配線図より実際のケーブル寸法及び材料の選別をすることができる。	ワーク シート	小テス ト	行動観 察
	5	4		小テス ト	前期期 末考査	振り返 りシー ト	
	6	4		前期期 末考査			
	7	3					
	9	3					

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 （単元の目標・評価基準等）	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	10	4	配線図のかき方	○屋内配線図記号、文字記号及び容量の描き方を理解する ○建物の平面図の描き方を理解する ○分電盤配置図の描き方を理解する ○器具の配置を考えることができる ○屋内配線図を描くことができる	ワークシート	小テスト	行動観察
	11	4			小テスト	後期中間考査	振り返りシート
	12	3					
					後期中間考査		
	1	3	内配線の設計	○低圧屋内配線に使用される電圧方式と電圧を理解する ○内線規程より分岐回路数が計算できるように学習する ○使用機器の定格電流より幹線の太さ及び分岐回路の電線の太さを計算できるように学習する ○屋内配線の負荷の想定ができる ○木造住宅の屋内配線設計ができる	ワークシート	小テスト	行動観察
	2	3			小テスト	後期期末考査	振り返りシート
	3	1					
					後期期末考査		

担当者からのメッセージ（学習方法など）
<授業の進め方> 教科書と、授業で配布するワークシートを元に授業を展開します。 <持ち物> 教科書、ファイル、筆記用具、タブレット <アドバイス> 配線図をかくためには、繰り返し練習が必要になります。部品の記号や配線方法方の学習、簡単な配線から少しずつ、複雑な配線の図面もかくことが出来るように練習をするようにしてください。また、自ら学ぶということを忘れずに積極的に技術の習得に努めてください。 <その他> 生徒の状況に応じて、学習項目にかかる指導時間や内容については変更することがあります。

令和7年度 シラバス（指導と評価の年間計画）

教 科	工業	科 目	電気回路	学 年	類 型	単 位 数
				2	電気	2
学習の 目標	電気回路について電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解するとともに、その理解に必要な計算力の定着を目指す。					
使用教科書	電気回路 1、電気回路 2（実教出版）			副教材等	なし	
評 価	評 価 法			ノート、プリント、小テスト、行動観察、振り返りシート、定期考査等		
	評価 観点 の 趣 旨	a	知識・技術	現代社会に沿った、電気現象や電流、電圧、抵抗などの関係を数的に学習する。 電氣的諸量の相互について原理・法則を理解し、知識と理解を身につけている。		
		b	思考・判断・表現	現代社会に不可欠な電気について、知識や理解力、考え方を身につける。また、 導き出した考え方を的確に表現することができる。		
		c	主体的に学習に 取り組む態度	現代社会において電氣的变化や現象が数式により表現できることに興味を持ち 電氣の仕組みに対して興味を持ち意欲的に学習に取り組んでいる。		
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価します。前期末および学年末に観点別学習状況の評価（A、B、Cの3 段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

学期	月	時数	学習項目	学習内容（単元の目標・評価基準等）	評価方法		
					a	b	c
前期	4	10	第2章 1 直流回路 ・抵抗の直並列接続	○オームの法則を用いて、抵抗の直列、並列の合成接続を理解し各抵抗の電圧、電流などを求めることができる。	プリント	プリント	行動観察
	5		・電流・電圧・抵抗の測定	○分流器と直列抵抗器を理解し、電流計及び電圧計の測定範囲を拡大して求めることができる。	ノート	ノート	振り返りシート
		15	・キルヒホッフの法則	○キルヒホッフの法則について理解させ、キルヒホッフの法則を用いた計算に習熟させる。 ○キルヒホッフの法則を用いて回路の電流、電圧を求めることができる。	小テスト	小テスト	
	6		2 電力と熱 ・電流の発熱作用 ・電力と電力量 ・温度上昇と許容電流 ・熱と電気	○ジュールの法則を用いて電流による発熱量、電力などを求めることができる。また、電線などの許容電流やゼーバック効果、ペルチエ効果などの熱と電氣の現象について理解する。	前期中間考査	前期中間考査	

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
前 期	7	7	3 電気抵抗 ・抵抗率と導電率 ・抵抗温度係数	○物質の抵抗率や伝導率が断面積や長さ、温度に関係していることを理解し、抵抗率や抵抗温度係数を求めることができる。	プリント	プリント	行動観察
	9	3	4 電流の化学作用と電池 ・抵抗の化学作用		ノート	ノート	
					小テスト	小テスト	振り 返し シート
					前 期 末 考 査	前 期 末 考 査	
後 期	10	15	第3章 1 電荷と電界 ・静電現象 ・電界と電界の強さ ・電位と静電容量	○磁気・磁界に関する用語の整理及び相互関係について理解する。 ○磁石による磁気現象について理解する。 ○円形コイルに流れる電流がつくる磁界について理解する。 ○点磁荷による磁界の強さについて理解する。	プリント	プリント	行動観察 振り 返し シート
	11	10	第4章 1 電流と磁界 ・磁石と磁気 ・電流による磁界 ・磁界の強さ		ノート	ノート	
					小テスト	小テスト	
					後 期 中 間 考 査	後 期 中 間 考 査	

学 期	月	時 数	学 習 項 目	学 習 内 容 (単元の目標・評価基準等)	評 価 方 法		
					a	b	c
後 期	12	4	2 磁界中の電流に働く力 ・電磁力 ・方形コイルに働くトルク ・平行な直線状導体間に働く力	○電磁力の発生、向き・大きさについて理解する。 ○電磁誘導と誘導起電力・ファラデーの法則・渦電流について理解する。 ○自己誘導と自己インダクタンスの計算について理解する。	プリント ノート 小テスト 後 期 中 間 考 査	プリント ノート 小テスト 後 期 中 間 考 査	行動観察 振り 返り シート
			3 磁性体と磁気回路 ・環状鉄心の磁気回路 ・磁化曲線	○相互誘導と相互インダクタンスの計算について理解する。 ○自己インダクタンスと相互インダクタンスとの関係について理解する。用語の整理と公式の整理をして理解する。			
			4 電磁誘導と電磁エネルギー ・電磁誘導 ・インダクタンス ・電磁エネルギー		プリント ノート 小テスト	プリント ノート 小テスト	行動観察 振り 返り シート
	2	2	第5章 2 コンデンサ ・コンデンサの構造と静電容量 ・コンデンサの接続 ・誘電体内のエネルギー	○静電気・電界等の基礎的な用語の整理と相互関係や法則について理解する。 ○静電容量の計算とコンデンサについて理解する。 ○静電気に関するクーロンの法則について理解する。 ○平行板コンデンサの静電容量について理解する。			
	3				後 期 期 末 考 査	後 期 期 末 考 査	

担当者からのメッセージ（学習方法など）

<授業の進め方>

教科書、プリントを基本に進めます。

<持ち物>

教科書、ノート、筆記用具、タブレット、ファイル

<アドバイス>

一年生時の復習から行い、計算や電氣的諸量の相互関係を踏まえて理解する学習なので、授業を聞き、自分なりにノート等をまとめ、学んだ内容を確認しながら各単元の復習をして下さい。

<その他>

生徒の状況に応じて、学習項目にかかる指導時間数や内容については変更することがあります。